

令和4年度 住まい環境整備モデル事業
【課題設定型・事業者提案型】
提案内容の概要

事業名称：CASA LALA MARINO

～母子と社会的養護出身の若者のための住まい～

代表提案者：雪下 洋子

共同提案者：特定非営利活動法人

ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア



子どもたちがたくさんの大人に可愛がられて
ゆったりと育つことができるように

親だけに子育てを負わせないで
まわりが支えていけるように

自分の経験と時間をほんの少し人のために使うことで
次世代を担う子どもたちが健やかに育ってくれることを願ってお手伝いします

チャイルドケアは子育てサポート事業を中心に活動しています

1. これまでの取組

取り組み	期間	内容
子育てサポート	2000.9～	中学1年から高校3年の障害児のサポート（市外へのサポート、習い事のサポート）
ファミリーサポート	2011.10～	相互援助活動
養育支援	2006.8～	大和市から依頼のある要支援家庭のサポート
つどいの広場 こども～る中央林間	2007.10～	親子の居場所の運営
つどいの広場 こども～る高座渋谷	2015.11～	親子の居場所の運営
ホームスタート	2020.4～	未就学児のいる家庭へ訪問し、一緒に家事育児、傾聴など協調・協働を行う
こども宅食やまと	2021.4～	大和市から依頼のある要支援家庭に配食をし、親やこどもたちを見守る

2. 現状・問題意識



『母子家庭における課題』

- ・母子家庭が住める住宅の欠如
- ・レスパイトで子どもを預けることができない



『子ども・青年の課題』

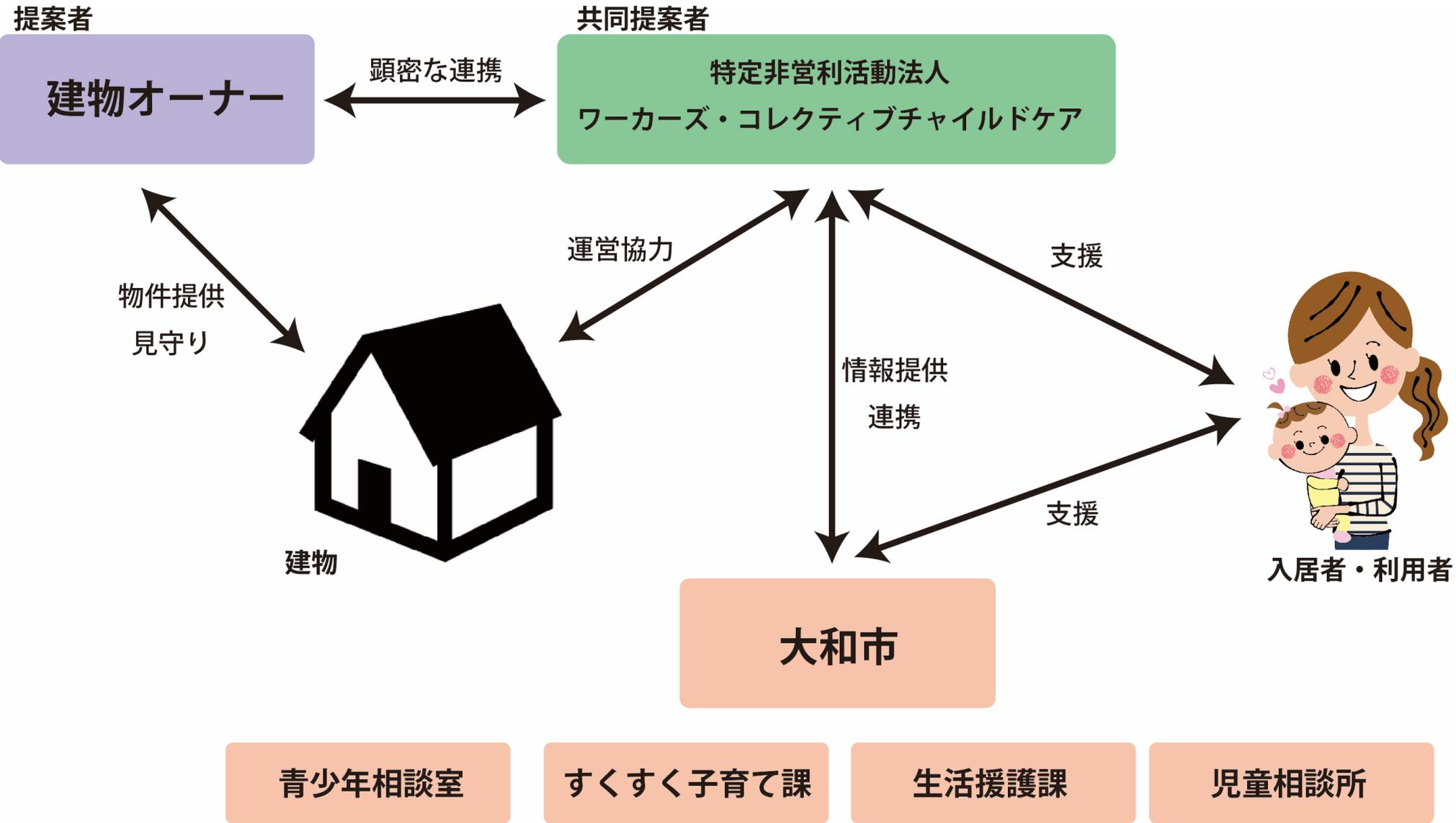
- ・外の世界と繋がれず孤立するヤングケアラー
- ・社会的養護出身者の住まい確保



『大和市の課題』

- ・上記に対応できる施設が皆無
- ・児童虐待件数の増加

3. 提案内容



3. 提案内容

持続可能性のあるコンバージョン

空き家の課題は、何も住宅だけではありません。

オフィスなど非住宅の建物もこれからどんどん空いていく。という課題にも目を向けなくてはなりません。

本プロジェクトでは、閉園をした元クリニックをコンバージョンして、地域に資する形で活用していきます。

地域医療の拠点となっていたクリニックが、また新たな命を吹き込まれ、異なる形で地域に貢献する。まさに先導性のあるプロジェクトです。

地域医療の拠点



地域の課題を解決する場

3. 提案内容

目指す空間のイメージ

大人も子どもも落ち着ける共有空間を目指します。

シンプルな白い壁と、無垢の木目。インテリアも空間に合わせて柔らかい雰囲気を作り出していきます。

元医院だったことから、階段も廊下も広いことを生かして、子どもたちが楽しめる遊び心を入れていきます。

右の写真の建物を設計した建築士に空間設計を依頼し、ともにイメージを共有しながら、空間を作っていきます。

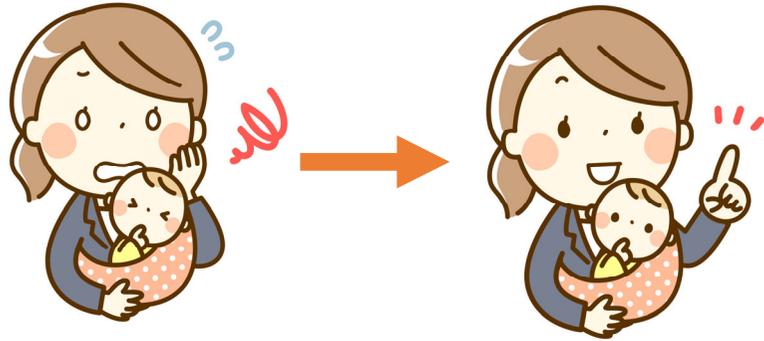


共有LDKのイメージ

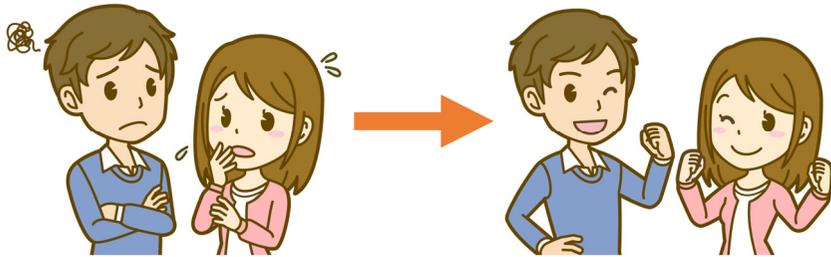


階段や廊下に遊び心を

4. 期待される効果



- ・安心して住むことができる住まい
- ・子育ての負担感、孤立感の減少



- ・安心して住むことができる住まい
- ・ヤングケアラーの孤独の解決



- ・連携できる居住支援先の確保
- ・支援が必要となる母子の情報共有
- ・支援が必要となる若者の情報共有

5. 検証方法



『入居者・利用者へのヒアリング』

抱えている課題を聞き取りし、本施設に入居、利用したことによって、その課題がどのように変化していったかを定期的に観測します。

『大和市への意識調査』



「居住支援」ができる場が市内にできることで行政との連携や、行政内での支援への姿勢、考えに変化があったかを調査します。